

沼津市

明治史料館通信

1986.10.25 (季刊 年4回発行) Vol.2 No.3 通巻第7号

★沼津兵学校の人材にみる幕府陸軍のミリタリー・ルック★



間宮信行 (幕府砲兵時代か)
ヘンタックスギャラリー所蔵・間宮丈夫氏提供



藤沢次謙 (旧幕府より)



浅井道博?
(浅井得一氏提供)



中島静 (左端、幕府歩兵時代)
村上邦弘氏提供



捐斐章 (撤兵時代か)
(旧幕府より)

シリーズ

沼津兵学校とその人材 ⑥

幕府陸軍と沼津兵学校

幕末以来、その装備・組織の近代化に幕府が力を注いできた陸軍は、静岡藩において解体され、勤番組という屯

は、和歌山藩による徴兵制実施のよう
な軍制全般での革新はみられなかった
が、幕府の優れた人材や最新の書物・

田兵とも言えないよ
うな単なる土着士族
集団と化してしまっ
た。しかし、静岡藩

武器などを軍事教育機関としての沼津
兵学校に集積し、学校の組織・制度上
で新生面を開いたのであった。一度武
装解除された静岡藩の特殊性や西周の
「徳川家沼津学校追加提書」の文学科
新設構想などからわかるように、単な
る陸軍士官養成学校にとどまらない面

もあつたが、基本的には軍事施設であつた。従つて、静岡学園所とは違い、あくまで静岡藩軍事掛（最初は陸軍局）の管轄下に置かれたものであり、学校の組織としても、戦争その他臨時の際には、教授・生徒とも旧幕府陸軍の階級に準じた戦時編成をとることになつていた（3ページの表参照）。また、学科編成においても、歩兵・砲兵・築造の三科に分けられ、幕末のぎりぎりの段階でフランス軍事顧問の建言によつて設立が計画された「三兵士官学校」の構想を継承するものであつた（もつとも沼津兵学校には三兵のうち騎兵科がなく築造科がおかれていた）。

人的系譜の上からは、服部綾雄・藤沢次謙といった藩軍事掛首脳が幕府陸軍の幹部経験者だつたほか、沼津兵学校の教授陣も、西・渡部・乙骨・杉といった蕃書調所―開成所の洋学者や赤松・伴・塚本といった海軍出身者も大きな比重を占めていたが、人数ではやはり陸軍関係者が圧倒的多数であつた。特に三等教授方は、幕府陸軍の佐官・尉官経験者がほとんどだつた。

また、兵学校の生徒のほうも、相当な人数が幕府陸軍の士官・下士官出身者だつたと考えられる。人材以外にも、兵器・機械・書籍といったものの相当数を旧幕府陸軍から引き継いでいたと思われる。明治三年六月の兵器庫の火災で焼失した兵器類は数千にのぼつたとはいわれている。現在「沼津文庫」として残存する兵学校の旧蔵書の中には、「陸軍所」の蔵書印の上から「沼津学校」の蔵書印が押

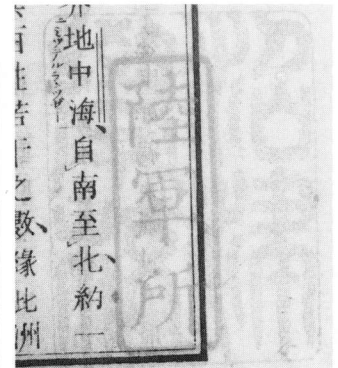
されたものがある。また、幕末に陸軍所が刊行したものをそのまま再版して沼津兵学校の教科書としたという例もあり、旧幕府陸軍と沼津兵学校との密接なつながりを証明している。変わったところでは、幕末のフランス軍事顧問団のひとりカズヌーフが乗用した馬が沼津に運ばれ、「カズノーフ」と名付けられて兵学校の乗馬練習に使用されていたという話もある。沼津兵学校は、幕府陸軍の優れ

氏名	幕府陸軍時代	静岡藩
服部綾雄	陸軍奉行並	権大参事・軍事掛
藤沢次謙	陸軍副総裁	少参事・軍事掛
江原素六	撤兵頭	〃
須藤時一郎	歩兵差図役頭取	軍事掛附属
大築尚志	歩兵差図役頭取	兵学校一等教授方
浅井道博	砲兵差図役	兵学校二等教授方
平岡資始	歩兵頭並	兵学校三等教授方
万年千秋	砲兵頭	〃
間宮信行	〃	〃
天野貞省	砲兵頭並	〃
永持明德	砲兵差図役頭取	〃
森川重申	歩兵差図役頭取並	〃
蓮池新十郎	砲兵差図役	〃
山内勝明	砲兵差図役頭取	〃
中根淑	歩兵差図役	〃
久須美祐利	奥詰銃隊頭並	〃
神保長致	騎兵差図役勤方	〃
揖斐章	撤兵頭並	〃
溝口善輔	歩兵差図役頭取	兵学校第2期資業生
中川将行	撤兵差図役下役	〃
真野肇	撤兵改役	〃
三谷隆造	歩兵差図役頭取	〃
古川宣營	撤兵差図役並	兵学校第3期資業生
矢吹秀一	歩兵差図役下役	〃
原田信民	歩兵差図役下役並	〃
生島準	撤兵差図役勤方	兵学校第4期資業生
野沢房迪	歩兵差図役下役並勤方	〃
愛知信元	銃隊差図役並勤方	〃
佐久間信英	砲兵差図役頭取勤方	〃
豊田金十郎	撤兵差図役並勤方	〃
山口信邦	小筒組差図役	〃
岡部長民	新砲兵差図役勤方	〃
林忍	砲兵差図役頭取	〃
中島静	歩兵差図役下役並勤方	兵学校第5期資業生

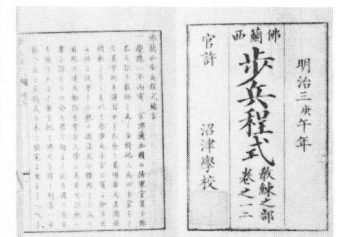
※幕府陸軍時代の階級・職名判明者のみ
沼津兵学校の生徒は、当初幕府陸軍士官・下士官を便宜的に編入したものであつたので、資業生に及第した者も相当数が旧幕府陸軍関係者だつたと考えられる。

階級対応表 (若干厳密さを欠く点あり)

幕府陸軍(後の呼称)	静	岡	藩
陸軍総裁(元 帥)	陸軍総括 → 権大参事・軍事掛		
陸軍副総裁(大 将)			
陸軍奉行(中 将)	陸軍頭 → 陸軍御用重立取扱 → 少参事・軍事掛		
陸軍奉行並(")	〈沼津兵学校〉 〈生育方 → 勤番組〉		
奉行 (少 将)	頭 取		
頭 (大 佐)	一等教授方	生育方頭取	沼津勤番組之頭
頭並 (中 佐)	一等教授並		同 並
頭並介			
総目付 (少 佐)			
差図役頭取(大 尉)	二等教授方	生育方取締	1~19番類頭取
改 役			
差図役頭取勤方			
差図役頭取並			
差図役 (中 尉)	三等教授方	生育方世話役	世話役
差図役勤方			
差図役並 (少 尉)	三等教授並		
差図役並勤方			
差図役下役(曹 長)	生徒一級	生育方肝煎	
改役下役			
旗 役			
差図役下役勤方			
差図役下役並(軍曹)	生徒二級		
差図役下役並勤方			
嚮導役	生徒三級		



幕府陸軍所から沼津兵学校へ移管されたことを示す蔵書印



大鳥圭介訳「歩兵程式」慶応3年に陸軍所が出版したものを沼津兵学校が明治3年に再版

ぬまづ近代史点描 ⑤

史料紹介

内浦盟社社則

ここで紹介する史料は、伊豆国君沢郡小海村(現沼津市内浦小海)の増田家文書から発見されたものであり、文明開化期における民衆の熱心な学習意欲を伺わせる興味深い史料である。

内浦盟社

印

方今維新ノ秋ニ至リ府下ノ輩ハ其学校又ハ諸先生ノ私塾ニ於テ日夜苦学勉強ヲ尽スト雖凡山野片鄙ノ海片ニ住メル我輩ノ如キハ時ニ後レ徒ニ旧習ヲ離レス開化ノ域ニ趣ク事ヲ得ス茲ニ因テ今般有志ノ輩ヲ語合社中ヲ結ヒ僅ノ積貨ヲ企テ以テ諸先生ノ翻訳サレタル書冊ノ中解シヤスキモノヨリ購求イタシ社中一順足ヲ読事ヲ得ハ開化ノ一端モ類フコトヲ得ヘシト云々

社則

第一則 社中毎月新貨二十五銭ツ、積貨致シ右ヲ以テ月ニ書舖ニ頼ミ諸先生ノ著述翻訳ノ書冊ヲ求メ社中一巡シ読終ノ上世話方エ相返シ申スベク候

文明開化期の

村落における学習結社

但右書冊ノ内望ノ方ハ其訳セハ方エ申遣シ其上ニテ預リ置可申事

第三則 右買調工候書物エ社中蔵書印ヲ居又基預リ主ノ印ヲ居何々ノ書ハ誰レ々方ニ預ケアル事巨細ニ記録ニ扣社中不都合無之様可致ス事

第三則 社中ニテ再度塾読致度輩ハ其訳セハ方エ申遣シセハ方ヨリ預リ主方エ申遣シ借受相渡申ヘ九候其他自己ノ貸借致スマシク尚読終之後モ同断セハ方エ相返シ申スヘキ事

第四則 右買調工候書冊ハ基社中蓄蔵ノ書ニ是アリ候得ハ譬ヘ預リ至タリトモ限りニ取扱ヒ致ス間敷候事

第五則 社中集会ノ義ハ四季ニ相立各ニ提弁ニテ打寄相互ニ陸合社則ヲ議シテ書冊ヲ取調記録ニ引合疎漏無之様可致事
但社中加除ノ義ハ随意勝手タルヘキ事

お知らせ欄

蔵書印には「足柄県第三十六区伊豆国内浦盟社蓄蔵書之印」と刻まれていることから、この史料が足柄県時代（明治四十九年）のものであることがわかる。

増田家は、近世以来津元をつとめてきた旧家で、当時の当主政慶（七兵衛）は、名主や戸長として村の有力者であった。

内浦盟社には、どのようなメンバーが集り、どのような書籍を購入したのかよくわからないが、いずれにせよ増田政慶のような地域名望家を中心となって結成した民衆の自主的な学習サークルだったことは確かであろう。この史料の文面からは、明治維新という新しい時代の開幕期において、中央に遅れをとらないようにと進んで新しい西洋の文化を取り入れようとする地方民衆の意気込みが強く読みとれるのである。

文明開化期から自由民権期にかけて、民衆のエネルギは全国的に学習結社や民権結社などを簇生させたが、内浦盟社がその後自由民権運動などどう関わっていったかは今後の調査課題である。

◎企画展「沼津兵学校」は10月30日で終了します

八月一日より開催されていた企画展「沼津兵学校」その教育と人材」は、好評のうちにこの10月30日で終了します。

今回の展示物のうち、借用した資料以外につきましては、今後も常設展示として生かしていくつもりです。企画展は終了しますが、沼津兵学校については、当館の中心テーマとしてこれからも展示・紹介を続けます。

◎図録「沼津兵学校」の御紹介

企画展「沼津兵学校」の開催を記念して刊行した図録「沼津兵学校」（B5判・63頁）は、二、二〇〇円にて現在販売中です。

沼津兵学校の人材の中には従来顔写真が知られていない人物が少なくありませんでしたが、この図録では今回はじめて公開するものも含め、多くの写真を盛り込み、沼津兵学校について視覚的にわかるようにとめました。この機会に是非御購読下さい。

◎古文書解説入門講座の受講生を募集します

古文書をはじめ読む入門者を対象に、江戸時代や明治時代の親しみやすい郷土史料をテキストにしながら、くずし字などの解読力を養う講座です。

自分の力で歴史をひもとく楽しさを味わってみませんか？

と き…11月23日、11月30日、12月14日、12月21日、1月11日、1月18日の各日曜日、午後2時～4時

ところ…明治史料館講座室
講師…市立高校 友野博先生
定員…三〇名

◎「なつかしの沼津」写真展への写真募集します

当館では、この冬に「なつかしの沼津」写真展を企画し、市民の皆様がご持ちになっている郷土の古い写真を募集しております。

沼津の街角や建造物、古い校舎の前の卒業写真、かつての名士と一緒に撮ったスナップ、当時流行のファッション写真など、明治・大正・昭和の古い家庭のアルバム

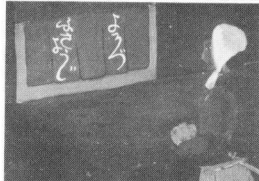
をもう一度見直していただき、これはと思うものがありましたら是非御一報下さい。

◎金岡中学校美術部の皆さんが江原素六の少年時代を描きました

現在、当館の4階展示室では、江原素六の自叙伝から、その少年時代のエピソードをやさしく紹介した13枚の絵が展示中です。これは、金岡中学校美術部の生徒の皆さんによる作品です。



めと門のこ入ののにさと屋貧しや寺



るを助ける
を房楊子
計を助ける
ために
家計を助ける
ために
売

沼津市明治史料館通信 第7号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1

☎〇五五九(23)三三三五